

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人愛生会	代表者	本田眞一	法人・事業所の特徴	グループホームと併設されていることにより、行事やレク活動だけでなく、夜勤などの職員体制も協力することができ、相乗効果が生まれている。また、利用者も小規模多機能から始まり、グループホーム入居へ繋げていけるなど、同一施設の強みが活かされている。さらに、同法人の特別養護老人ホームへ繋げていける安心感を提供している。
事業所名	小規模多機能居宅介護なごみ	管理者	園田健二		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	2人	2人	0人	0人	1人	0人	2人	1人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	シートでのやり取りで終わることなく、全職員が自身の言葉で意見を言えるよう、ミーティング時間の確保と、参加しやすい環境を整える。	ミーティング時間自体は確保出来ているが、カンファレンスが優先となっており、自己評価に十分な時間を確保できていない。	時間的制約もあり、ミーティングに出席できないこともあり、シートでの参加も必要。ミーティング時間を複数回設けるのも良いのでは。	なるべく全職員の意見を聞いていけるよう、取り組みを早く開始することと、ミーティングや会議を1回だけでなく、複数回開催して、より多くの参加機会を設ける。
B. 事業所のしつらえ・環境	地域への開放という意味でも、行事参加者以外の方でも気軽に立ち寄れる工夫～認知症介護で困っている方の相談、地域交流スペースの利用促進 など。	地域交流スペースを使用することは、運営推進会議以外あまりなかった。相談対応に関しては、ケアマネなど専門職が行っていく内容となり、介護職員側では対応は困難。	環境としては特に不適切な印象は受けない。玄関の会議（自動ドア）については仕方ない。建物の構造上、デイフロアから簡単に出てけるようになっており、見守りなどの負担は大きいと感じる。	コロナによる閉鎖的取り扱いとは終了している。地域との繋がり強化を意識して、行事参加や周知、地域交流スペースの利用促進を考えていく。
C. 事業所と地域のかかわり	さまざまな活動が再開できるようになってきている。従前からのつながりを復活させるとともに、近隣地域を中心に新たな交流も持てるよう、行事参加を積極的に行っていく。	以前からの取り組み再開としては、近隣保育園との交流や移動パン屋さんなどが行えた。アニマルセラピーも復活に向け動きはとれたが、新たな交流開拓という面では動きは取れていない。	関わりづくりとしては、レクの一環であったり、特定の団体との交流のみで、地域全体という形にはなっていない。中々難しい面もあるが、広げる工夫は必要になる。	行事に参加するだけでなく、地域に知って頂ける取り組みを意識する。地域包括主催の講習会では会場提供だけでなく、スタッフも運営に参加していく。他に夏祭りの開放なども。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	施設だけでなく、お客様それぞれの居住地域での交流が促進できるよう、近隣の方への声掛け挨拶など積極的に行う。支援の意識を持っていただけにする。	挨拶などは概ね出来ている。一部では、安否など不安な状況のある時に、なごみへ連絡をくださるなど、協力体制も出来ている。	インテークの段階で近隣との関係性をしっかりと把握して、支援開始後も周囲の負担にならない範囲で、協力関係を維持していく。また、家族との関係性でも、疎遠になりがちな家族との連絡・協力体制を築いていくとよい。	インテーク時に関わりのある機関・人の把握を行い、その利用を継続支援する。また、距離のある家族でも協力を引き出せるよう、声掛けする。

E. 運営推進会議を活かした取り組み	内容が画一的になっている。報告事項は簡単に済ませ、課題解決への意見聴取や実際の取り組みと一緒に参加頂くことなどを検討していく。	大きく変わった印象はない。合同開催のグループホームでも他施設職員の参加があり、施設ならではの課題や、小規模多機能との協力体制などを知ることは出来た。	例えば、消防訓練などを行い、訓練風景を見て意見を頂いたり、参加協力を得られるきっかけにするのも良いのでは。	内容に事例紹介も入れるようにして、現在の取り組みだけでなく、「小規模多機能」や「なごみ」の機能を理解していただくきっかけとする。
F. 事業所の 防災・災害対策	B C Pの作成が遅れているが、年度内の完成を目指す。完成して終わりではなく、職員への研修・訓練を通し浸透させる。内容の改定も防災委員会を中心に行っていく。	B C Pの完成とそれに伴う、研修や訓練は実施できた。	訓練内容がまだ手探りなので、色々な情報を参考にブラッシュアップさせ、その訓練での課題を通して、B C P計画の中身も改定していく。	B C P訓練と合わせ、避難や唱歌といったその場の対応だけでなく、長期的な避難生活など、その後の場面を想定して行っていく。